

## 社会教育改革重点施策（案）

2003/11/4

## （１）改革の視点

市民社会の成熟にともない、これまで全市的に幅広く展開されてきた生涯学習のあり方を見直します。市民の自主的な学習要求に応えていくため、ハード、ソフトの両面から、よりきめ細やかに市民参加のシステムを確立していきます。また、学校教育とのきめ細やかな連携を図りながら、学校や子どもを地域全体で育てていく社会を目指すとともに、時代の学習ニーズに応じ、より専門的に市民教育を行う、新たな社会教育の方向性を考えます。生涯学習の基礎的な部分である子ども達を育て、まちを育て、川崎を育てる社会教育の役割を明確にしていきます。

## （２）改革の方向性

上記の方針に従い、目的を達成するため、以下の内容を推進します。

## 行政区を単位とした、生涯学習のネットワークづくり

生涯学習が単に市民の生きがいづくりに終わらず、地域のまちづくりについても重要な役割を担っていることから、行政区との連携を図りながらよりきめ細かく地域の生涯学習を推進する体制を整えていくことを目指します。例えば、各区に地域の生涯学習をコーディネートする職員等を配置し、市民活動のサポート、地域の人材育成・人材活用などを推進していくことなどが考えられます。

また、市民館、博物館、こども文化センター、スポーツ施設、老人いこいの家、学校などでは、住民参加による施設運営と社会教育活動を基本としながら、施設をより有効に活用し、地域の中に多様な市民活動の場ができるよう、これら施設のネットワーク化をすすめます。

## 学校や子どもを地域全体で育む、川崎らしい学社連携の仕組みづくり

学校週 5 日制の開始にともない、地域社会の中で子どもの受け皿へのニーズが高まってきています。現在、各社会教育施設では子どもを対象とした事業展開が活発になされているとともに、こども文化センターは中高校生の居場所としての機能を持ち始めていますが、さらに、子どもの自主性を育てるような子どもの居場所を、多様な価値観を持つ子ども達のより身近な地域の中に広げていくことを目指します。

また、地域全体が子どもを含むあらゆる人々の学びの場になっていくために、市民にとって一番身近であり、ハード的な場も備えている学校が、生涯学習において

より大きな役割を担っていくことを推進します。学校が教育活動全般にわたって地域人材の活用、地域の中での社会体験学習の推進、公共施設の積極的活用を図るとともに、地域も、地域教育会議、子ども会、市民サークル、PTA、総合型地域スポーツクラブ、市民館、図書館、スポーツ施設、博物館施設などの活動をとおして、積極的に学校を支援していくという、学校と地域の相互の協力を推進します。そのために、各区に学社連携の推進を専門に行う職員等を配置することや、学校、各施設、団体等の連携組織による推進体制を構築することなどが考えられます。

さらに、地域教育会議については、区単位の生涯学習事業を自らの責任で展開できるような自治的な住民主体の生涯学習組織・活動として位置づけ、市民参加のより有効なシステムとして再整備していきます。

#### 新しい時代の学習ニーズへの対応

勤労者、中高校生など、これまで社会教育の場に関わりにくかった人々の地域参加を促進し、全市民が自発的に、何らかの学習活動や地域づくりに携わることを目指します。

また、新たな社会的課題の専門的学習、学校以外の場での子どもや若者の社会的感覚の育成、キャリアをもつ人材の地域活用、など、新しい時代の学習ニーズに奥深く応えていく、市民教育のためのシステムを整備するとともに、常にそれら市民の学習ニーズを的確に把握するため、確かな情報収集と情報提供を行っていきます。